

# 夢松原のつどい

～水源の森から海までの環境実践～

第1弾 2010.08.30

実施報告 (概要)



## 13:30～16:00 マリゾン 2F グランビュウ

『水合わせの儀』 第14回ふくおか水の感謝祭  
『海と川のフォーラム』

- 基調講演 半田孝之 氏 (伊崎漁協)  
『博多湾の美化活動』
- 小学生の海と川の体験発表  
小学生6グループ発表
- ゲスト チコ 氏 (オイスカ 研修生)
- ワークショップ  
「子どもも大人も環境実践を考えよう」



## 16:30～17:30 シーサイドももち海浜公園

『夢松原のつどい ー夢松原会場ー』

- ミニ水族館「博多湾の魚たち」  
博多湾で取れたばかりの魚に会おう
- 松原ミニコンサート  
桃谷正孝氏 [ウクレレ・ギター]  
FSMグループ[ポカール・ギター・キーボード・パーカッション]  
奥本有紀・町田哲也・久保美紀・山田寛大



激しい降雨のため 松原での企画は部分的にマリゾンにて実施

主催 : 夢松原のつどい実行委員会 (事務局 特定非営利活動法人 はかた 夢松原の会 内)  
 後援 : 福岡市/ 福岡市教育委員会/ 西日本新聞社/ 毎日新聞社/ 読売新聞西部本社/ 朝日新聞社 / 九州大学工学研究院 /  
 協賛・協力 : 福岡大学工学部 / 福岡市港湾局 / 福岡市環境局 ・ 福岡市保健環境研究所 / 福岡市農林水産局 / 福岡地区水道企業団 / 博多ふ頭株式会社 / 博多港管理株式会社 / WEDDING ISLAND MARIZON / マリゾン・博多湾環境整備共同事業体 / FSM (福岡スクールオブミュージック) / ほか  
 参加者 : 107名

～会の進行にそって～ 発言内容の抜粋

### 第14回水の感謝祭 水合わせの儀

運営進行 齊藤政雄 筥崎まちづくり放談会 副理事長

水の女神 多々良川 ・ 御笠川 ・ 那珂川 ・ 樋井川 ・ 金屑川 ・ 油山川 ・  
室見川 ・ 十郎川 ・ 瑞梅寺川 そして、新たな川・・・ 海水淡水化より



博多湾へ想いを注ぐ



### 夢松原のつどい

#### 主催挨拶

江頭 和彦 はかた夢松原の会 理事



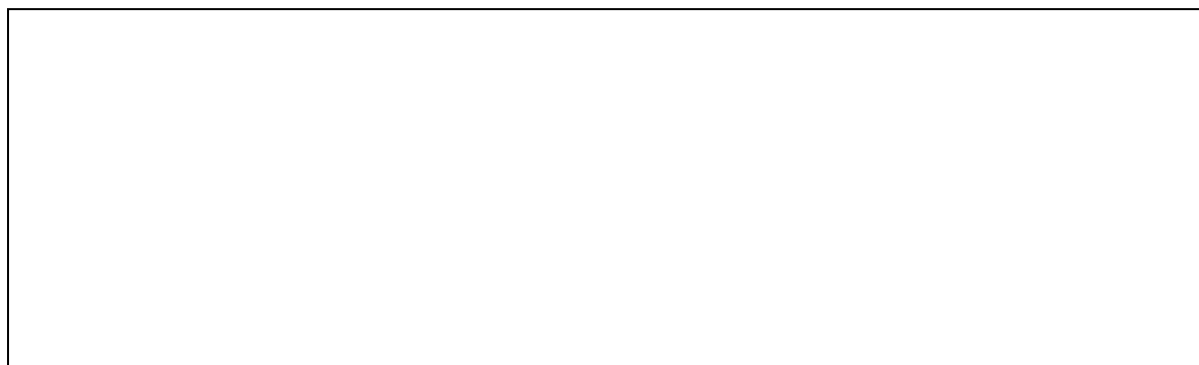
#### 来賓挨拶

池田 薫 福岡市港湾局 局長



#### 趣旨説明 神野健二 夢松原のつどい実行委員長

水源の森から海までの環境実践について、フォーラムを開催して参ります。その第一弾として本日、子どもたちが海や川や水源の森そして漁業などの体験を通して学んだことや思いを発表します。10月30日には大人を中心に環境実践に向けた具体的な話し合いを計画しています。多様な議論よろしくお願いいいたします。



基調講演 講師 半田 孝之

- 講演骨子 -

### 生態系と循環、都市化による循環共生の崩れ 博多湾の現状を踏まえて

現状 クルマエビ・シャコ・マガレイ・ヒラメ・アナゴなどが激減。アカガイ・タイラキガイ・イダコは博多湾では絶滅危惧種といっても過言ではない

\* \* 図解での水の循環、海に流れ込む養分と生態系の仕組みを説明

\* \* 海底の養分が少なく、ヘドロ化している

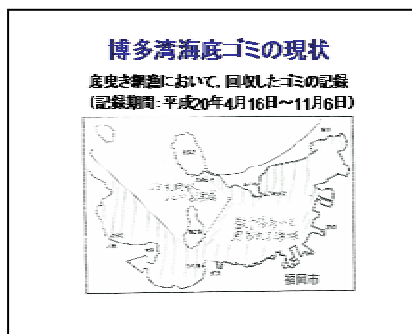
海岸線の変化(砂地の減少)・・・コンクリートによる都市化(海砂を取り都市構造物(ビル・護岸・海岸線

漂着ゴミ 海域のつながり、もしくは航行する船

などによる投棄などもあるのではないかと。底引き網がひけない地域では、更なる悪化、悪循環による。

海底ゴミの回収が進まないと海が死に、微生物が死に、悪臭のする湾になっていく。底引き網によるゴミの除去 一っこうに少なくなる気配はない。ビニルなどの浮遊時化ると海底から浮き上がる。

ビニル類が低引網にかかり牽引に多くのエネルギーが必要になる。



目標 博多湾に流入する排水(下水・雨水・河川水など)の処理などの工夫によって潟や海岸を生きた状態に保つ

\* 山の木々、川、海、そして人一人ひとり、生き物すべてがつながりをもってバランスを保ちながら生態系を維持してきています。

【講演発言抜粋】 昔は海底にもそこで生活する魚がたくさんいました。今ではこれらの魚が激減し、アカガイ、タイラギなどは絶滅危惧種といっても過言ではありません。では海底の生き物が減少したのか。(スライド)海に流れ込んだ様々な有機物は、海の微水生物や魚たちによって分解され浄化されます。かつては循環型社会ができていたのです

が、都市化が進み人口が増加し、工場ができ、そして生活排水や工場排水で川が汚れ博多湾が汚れる。また埋め立てなどで干潟が消え、泥を食べる微生物が少なくなり、博多湾の宝である良質の砂や泥がヘドロ化しています。また、深くなることで、日光がとどかず、藻場も減っていきます。海底の砂がなぜ少なくなったか。私たちのこの街はコンクリートの街です。多くは限界島沖の海砂を使って出来あがっています。海砂が取られ海底に砂が少なくなっているのです。

二十数年前から私たちは私たちのできる方法で海のごみを回収してきました。

(スライド)

一昨年の回収したごみの記録です。各国のごみが網にかかります。粗大ごみ(冷蔵庫や洗濯機)が入ることもあります。

博多湾に出入りする船舶からの投棄もあると考えられます。同じ場所で回収しているのですが、一向に減る気配はありません。(ワイヤー・傘・ビニール……)

海中の生き物が多少の分解はするのですが、限度があり、溜まるばかりです。海がしけると海底のごみが舞い上がり網に多くかかります。

回収している海域でもこの状況ですので、底引き網を引けない海域には数十倍のごみがあるだろうと推測できます。生物のすめないひどい状況になっていると考えられます。博多湾は死んだ海になってしまう。すると、海に流れ込む様々な有機物を分解できず、悪臭が漂う海死んだ海になるでしょう。

汚水処理場から排出される排水も燐や窒素が除去されずいぶんきれいにはなっていますが、まだ不十分です。処理水をそのまま流さず、水草や木々の生い茂る小川を通し、酸素を含ませ少しでも生きた水にして海に流すべきではないかと思えます。また、和白干潟付近では夏場の低酸素を防ぐためにも噴水などの方法で海に酸素を含ませるような工夫をして流すことで干潟の微生物も増え、処理能力も向上するでしょう。

里山と同じで、人がいったん手を加えた海は、人の力で環境を守っていかなければなりません。

また、私たちは海底のごみを回収し、海底を耕しています。市民の方々にはごみを減らし捨てないで活動していただければと思います。

行政市民われわれ魚業者が3位一体となってごみを減らし回収し博多湾を含めた福岡の自然を守っていかなければなりませんもしも海がなくなったらどうなるか地球上のすべての生命が消えるでしょうよく母なる海という言葉に耳にしますが地球上のすべての生命の元は海にあるからでしょう。人間の先祖は大昔海にすんでいて次第に進化し陸へ上がり長い時間かけて進化し人となったと考えられています。私も赤ちゃんの時お母さんのおなかの中において羊水という水の中で過ごし、産まれて来ました。この羊水の成分は海水とほぼ同じだと聞いています。まさに母なる海といわれる所以ではないでしょうか。私は「母なる海」という言葉が好きです。私たち漁師は母なる海で仕事ができることを誇りに思っています。そんな大切な海を私たちは守っていかなければなりません。

博多湾は山の木々1本1本とつながっています。川のひとつひとつともつながっています。また人1人ひとりともつながっています。川を生かすのもひと次第。博多湾を生かすのも人次第です。一人ひとりが少しだけの気遣いと思いやりを持てば川や海や自然を守ることが出きるのではないのでしょうか。

最後になりますが、自然は未来からの借り物です借りたものなら借りた時以上にきれいに返したい。未来の子供たちのためにも美しい自然を残したいと思えます。



(1) 発表 表 (発言概要抜粋)

安立 海 「思ったより汚れている博多湾、いろんな生き物がいる海へ」

当人小学校4年です。先日底引き漁業の体験をしました。コチのおなかの中には小魚がたくさんありました。クサタコはサラダにして頂きました。いろんな魚がとれてすごかった。家族で出かける志摩町の海は博多湾よりきれいで、いろいろな魚がいます。「ブンブクチャガマ」という有名なさかなもいました。

博多湾は志摩よりきれいと思っていたが、ちょっと汚かったです。底引きのときにたくさんのかもめがやってきて、漁師さんが小魚をなげるとくわえてもっていきました。(PPT 資料あり)



(5) これは、ブンブクチャガマです。  
・はじめ、ハリセンボンかと思いました。砂の中をぐもぐも、うごいていました。  
・しらべたら、ずいぶん珍しい、人気のある生き物でした。



木村 介人 「人間が自然と関るときは注意が必要だ」

平尾大池の食物連鎖について調べました。大池は洪水調整池です。ダンゴムシの食物連鎖を調べた経験がありましたので、平尾大池でも調べました。スジエビ、ヨシノボリなど捕まえました(パネル参考)、ヨシノボリは吸盤にして張り付くので葦などを登るのではないかというのでついた名前だそうです。食べるものは藻類やプランクトン・昆虫・ミズなどです。

カダヤシは特定外来生物で肉食で魚の卵・稚魚や水生昆虫やプランクトンなどを食べます。一度に100~300ひきを産む繁殖力が強い生物です。ほかに、コイ・マガモ・コサギやカメやウシガエル、ザリガニも特定外来生物で藻や水草や小魚を食べます。

キショウブはおとどしまでは池の半分を占めるように群生していましたが、市が除去作業を行い、今は少ししか残っていません。他にもガマなどが生えていますが、福岡県指定の天然記念物の筑紫大カヤツリなどもあります。サギ・カメ・ウシガエルなどがこれない狭い場所にスジエビやヨシノボリが集まっていることが判りました。カダヤシの旺盛な繁殖力のおかげでこれらの生物がえさに困らないことも判りました。平尾大池の生き物はそれだけで生きることではできなく、食べる食べられることの繰り返しや微生物による分解などがあって生態系ができていくことがわかりました。カダヤシはコイに食べられ、死後は微生物によって分解され植物に利用されます。外来生物だからといってそれを駆除してしまうと新たな生態系を壊してしまうことになると思いました。



山本純也(小6) 池端蓮(小4) 桑原七珠(小3) 山本紗弓(小4) (NPO ふる里の海を守る会)

**海の調査。そして 私たちができること**  
博多湾の8箇所(どろ)の海底を調査してきました。海底からとってきた泥を説明します。

\*\* 地図で調査地点および観察内容 \*\*

博多湾内の7つの地点では「生きものがいるとはおもえない」「くさい泥の溜まった海」「茶色い海」「貝の小さいものが多かった」「汚くて臭い泥と一緒にヒトデがいました。



能古島近くは泥ではなくて砂できれいだった。

海底調査をして一番きれいだったのは能古島の海の生き物を調べました。渡船場近くの周りの岩場で見つけた生き物はカニ、サカナ、イソギンチャク、貝でした。

泥の中にはたくさんヒトデがいたのに、きれいな岩場では見つけることができませんでした。もしかしたら泥の中には大量のヒトデで被いつくされているかも知れないと思いました。

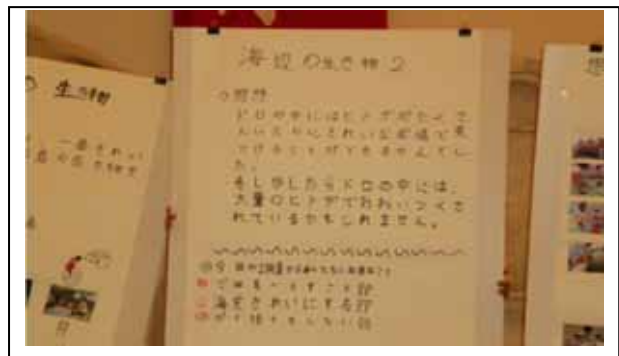
私たちがしなければいけないこと。

ゴミを減らすこと

海をきれいにすること

ポイ捨てをしない。

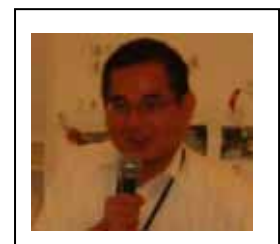
海底の泥の標本をもってきているのでごらんください。



**海底泥の説明・・・久保山さん(ふる里の海を守る会)**

子どもたちに海底調査をして頂いています。博多湾の汚れ具合が判ると思います。

汚泥・・・1月19日採取、舞い上がると1週間は浮遊し海底に沈んでこない。



海底の生物が呼吸ができなくなったり、光が海底に届かなくなるため植物が育たなくなり、それを食べる魚も育たない。これらのヘドロが博多湾にたまっていき、魚がすめなくなっている心配がある。

**魚がたくさん生息する豊かな海にしていきたい。**

### 浅野 凌介 「室見川にでかけよう」

調べたこと:どんな魚が、どこにすんでいて、どのように採取したか  
タモ網(ヤゴ・カワムツ・オイカワ・モクズガニ), 投網(アユ・オイカワ  
フナ・ムギツク・カワムツ・カマツカ), さね網(オヤニラミ・ムギツク・  
オイカワ・ドンコ・カジカ)などをとります。今回の探検ではそれぞれの  
生活環境で取れる場所が異なっていました。オヤニラミやカジカは絶滅危惧種に指定さ  
マトシマドジョウもとても珍しいものだということもわかりました。



室見川は汚いと思っていましたが、意外ときれいで、オヤニラミやカジカのような他の川には  
いないような魚もいてとても驚きました。しかし、コイや金魚もいましたが、これらは人が放流  
したものだと思います。ほかの魚などの卵などを食べてしまい稚魚が育たなくなり、川の  
生態系が崩れてしまう可能性があります。人が放流した魚からも川を守りながら、この魚たち  
を未来に残していけたらいいなと思いました。

### 久保園 龍太 「ギンブナのひみつ」

ギンブナはコイ目コイ科です。流れにゆるいところに  
すみ、雑食(プランクトンより藻類を好んで食べる)  
メスだけで繁殖する。ドジョウやオイカワなどの精子で  
受精し、4月~6月、水面の葉っぱに卵を産みます。



### 南 恒史郎 「室見川のいのちたち」

室見川の生き物 8月21日取った魚のことをもっと調  
べたくて詳しく調べました。

オイカワ・ギンブナ・モクズガニ(川にすむかになら  
は大型)・オヤニラミ(肉食ですが、雄が子育てをします)  
ムギツクとオヤニラミは一緒に生活していることが多く  
オヤニラミに自分の子を守ってもらいます。

室見川を探検して魚の種類が多かったです。室見川がずっといつまでもきれいになるように  
ゴミを捨てたり汚したりしないように気をつけています。これからも室見川で遊びたいです。



### 伊豫岡 宏樹

ミャンマーよりゲストをお招きしています。紹介を小野さんをお願いします。

### 小野泰司

こんにちは、オイスカの副所長の小野です。民間の農業研修を  
行う団体です。現在19名の研修生を受け入れています。チコ  
さんはミャンマーからお越しですが、そこは蛇口をひねると水が  
出る都市の生活とはことなります。

チコさんがミャンマーの水事情を説明します。



チコ氏 大切な水 ミャンマーの水事情

日本での研修は2回目です。農業やオイスカミャンマーの指導者として研修に来ています。私の国は昔ビルマと言っていました。人口が5300万超です。

北部は高い山が多く、一番高い山は5889mで、雪も降ります。気候は日本と似ていて寒いところです。 \*\*写真説明\*\*

南部はきれいな海があります。ミャンマーでは90%の人が仏教で「ムラ」(日本では寺)を見ることができます。

\*\*写真説明\*\*

中部は45 から48 で、今年は特別で51 まであがってしまいました。 \*\*写真説明\*\*

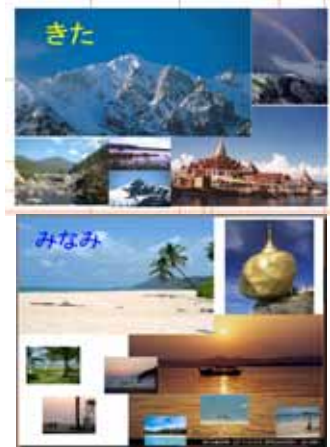
雨の少ないところで、年間降水量は300から500mmで、福岡では2~3日で降る量になります。したがって中部の問題は飲料水の問題になります。井戸を深く掘ってもあまり水がでず、でも塩分が多いのでめません。

\*\*写真(ため池を手作業で掘っている)\*\*

ため池に雨のときに水をため、これを飲料に使用します。雨の少ない年は大変で、私たちの村から、一時間半ほど歩いて水をうっているところに行き、一日に3時間かけて水を求めてきます。しかし給水時間も決まっていて求めるのが中々難しい。飲料以外の水は牛車ついで運びます。同様に3時間かかります。子どもたちの日課のひとつが、学校へ行く前に並び1バケツの水をもらうために2時間かけています。水は貴重です。このような条件の厳しい国ですが、オイスカでは毎年60箇所の村の山への植林[3万本で50%がかっ着)をしています。

子どもたちに環境学習をしながら毎年植林しています。また、子どもたちの飲み水を確保するために雨水をためるダムを作ることを行っています。体を流した水を洗濯に利用し、その後家畜たちに使います。このように中部では大変貴重な水です。

この地域の人たちは蛇口を見たことがありません。皆さんはどのように思われたでしょうか？



## 神野 健二 実行委員長

福岡は水がきびしい都市です。水道をひねると水がでると思っているようですが、いろいろな開発や確保をしながら手元に行くようにしています。筑後川からもその水道水の三分の一を福岡導水で運んできています。水はいつでも水道をひねると出ると思われるでしょうが、水道関係者や筑後川流域の方々が水源の森の保全を行う活動があって、毎日私たちが安全な水を使うことができるようになってきました。チョコさんの説明でもありましたように東南アジアの地域では衛生的な飲料水を確保するのも難しいし、大規模な水道設置も大変難しい。井戸の開発などが進むことを祈ります。

## (2) ワークショップ

伊豫岡 宏樹 ワークショップの時間に移ります。

興味のあるパネルの前でいろいろな質問をし、いろいろな意見をまとめて行きたいと思います。ここで、海淡水を紹介します。海水から創った水ですので一度飲んでみてください。水の横にお菓子も用意しておりますので頂いてください。それでは、ワークショップに入ります。

## 伊豫岡 宏樹

「博多湾をどうにかしたいね」という思いから「はかたわん海援隊」の活動が生まれました。

生態系や文化に関する活動

大学生と先生とで活動する

樋井川での調査活動も実施しています。

河川氾濫時にはボランティアとして後片付けなどの復旧作業にも出向いています。

観察会なども小学校などで行っています。清掃活動・啓発も同時におこなっています。

地域住民の方々とも一緒に活動をしているところです。

福岡にも蛸がたくさんいたようですが、今ほとんど見ることはできませんが、都市化のために開発された結果でしょうが、大学の構内に水路をつくり蛸を育てています。福大育ちの福岡の蛸が飛び交うことを祈っています。

樋井川・室見川・博多湾の資料や啓発教本を制作する活動も行っているところです。

福大生ばかりではなく、一緒に活動する仲間が増えてきて、樋井川の一斉調査をしています。樋井川フォーラムや発表会も行っていますのでご参加ください。

学生が地域連携を図りながら河川をどのようにしていくか考えています。

とはいえ、昨年の10月から福大に参りましたが、短時間の間にいろいろな活動に参加しています。海の保全活動は範囲が広くそのノウハウを構築したいと考えています。



## 一般の方に感想など

### 木村三重子

初めて参加しましたが、感激しました。「水の感謝祭」を14回も行っておられたことを知らなかったことにびっくりしました。この活動に関係者の皆さがそれぞれの立場で参加され、そして子どもたちが生き生きと発表されていることに大変感激しました。



### 川口道子

市民運動には結果を見なければいけない。情熱と文化と歴史を先祖から引き継いで行っているのです。12年ほど前に、中国の子どもたちを招いてシンポジウムをしましたが、そのとき、中国の子どもたちの環境への意識や具体的な行動(新聞を作りそれを販売しているなど)の発表やその活動と行政や政府がどのように関わっていき次世代を育て環境を育てていくか学びました。

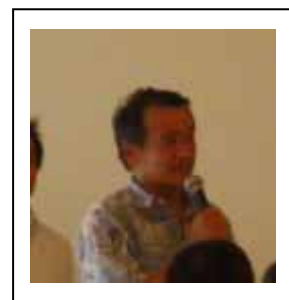
私たち日本人も市民と行政がいかに関わって次世代に環境という財産を残していくことができるのか結果を残せるような関わりを考えて参りたいと思います。

ありがとうございました。



### 安立 清史

子どもと一緒に漁業体験をさせて頂き、魚よりもゴミが多いのにびっくりしました。このももち浜はハワイと似たところがあります。高層ビルと砂浜と海があります。ももち浜で潜水することはできませんが、巨大な都市にももぐるとすぐに回遊魚を見ることができるそんな環境を取り戻したいと思いました。



### 土谷

福岡に帰ってきたとき、環境の市民活動をしているところを探していましたが、紹介をうけて今日参加しました。子どもたちがどれをとってもレベルの高い発表にびっくりしています。この活動がすでに23年を過ぎ、しかも水関係で14年されていることに驚いています。夢松原のように行政とのかかわりにおいて役割を明確にし、結果をだす活動をされると聞いています。大阪湾に比べればずいぶんきれいな博多わんなのですが、昔はもっときれいだったと聞きましたらやっぱりもっともったきれいにしたいし、私の子どもたちにも見せたいなとわくわくしています。



## 学生たちによる意見の集約

きれいな川にしたい。海や川にミを捨てなければ生き物が増えてくるのでは  
外来種も含めて考えたい。日本古来の種も残し、増やしたい。将来的に多様性豊かな環境に  
したい。もっと室見川に魚がすめるようにしたい。  
魚が増えれば、子どもたちも多く川であそび接することができる。

## (3) まとめ

### 神野 健二 実行委員長

長い時間ありがとうございました。小学生の皆様には短い時間の中すばらしい準備をして頂きあり  
がありがとうございました。来年に向けてはもっと時間的な余裕を配したいと思います。10月30日には専  
門家・行政の方々と共にどのように繋いでいくか考えて生きたいと思います。

## お知らせ

10月30日(土) 午後13:00から福岡大学にて実施いたします。こちらもよろしくお願い申し上げます。  
よろしくお願いいたします

パネル一覧



海辺の生き物 2

〇感想  
 ドロの中にはヒトデがたくさんいたのにきれいな岩場で見つけることができませんでした。  
 もしかしたらドロの中には、大量のヒトデがおおいっくされているかもしれません。

~~~~~

◎ 今回の調査から私たちに出来ること  
 ① ごみをへらすこと!!  
 ② 海をきれいにすること!!  
 ③ ボイ捨てをしない!!

博多湾の海底からとった泥について

| 場所           | 感想                                   |
|--------------|--------------------------------------|
| ※とっ 大塚町      | すおみわいにかわな<br>くてもまきものかまの<br>まは思わなし    |
| ◎ すぎさふ 藤 近く  | ① 量と同じか量いでちや<br>なてそくこい。              |
| ◎ たたら川 近く    | ② 量と③より色が白い                          |
| ◎ アランドンテ 近く  | かいのちいさいくまきまは<br>はいはいしていた。            |
| ◎ 西戸崎 近く     | かいがらがたくさくさあまけ<br>た。                  |
| ◎ 東ほう けてい 近く | かたなくてくさい臭いはい<br>とちが入った。              |
| ◎ めいのはま 近く   | ほろのどくちへまとせんせん<br>きれいで、泥というよりさら<br>た。 |
| ◎ のこの島 近く    | かたなくてくさい臭いはい<br>とちが入った。              |
| ◎ 志賀島 近く     | かたなくてくさい臭いはい<br>とちが入った。              |



# 平尾大池の食物れんさを調べよう

6年4組 木村 介人

1 研究の動機  
ぼくは、夏休みの間にダンゴムシなどの食物れんさを調べました。そこで、身近な平尾大池の生き物の食物れんさを調べているのが調べたいと思い、平尾大池の食物れんさについて調べました。

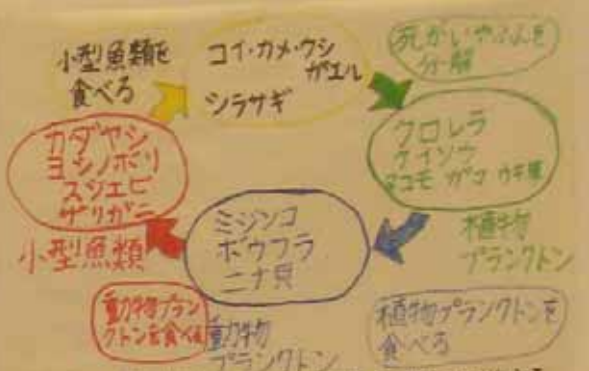
2 研究の方法  
平尾大池の生き物の写真をとったり、つがまをとりして調べる。  
3 研究の結果

## 平尾大池の生き物とその場所



## 4 わかったこと

- 水の流れるやわらかい場所にマコモが生育し、その根を利用してクマガエルガマガエルがはくはくしている。
- サギ・カメ・ウシガエルのこれないせまい場所にスジエビ・ヨシノボリが暮らしている。
- カダヤシの旺盛な繁殖で、クマガエル・コイカメ・サギは、えさにこまらぬ。

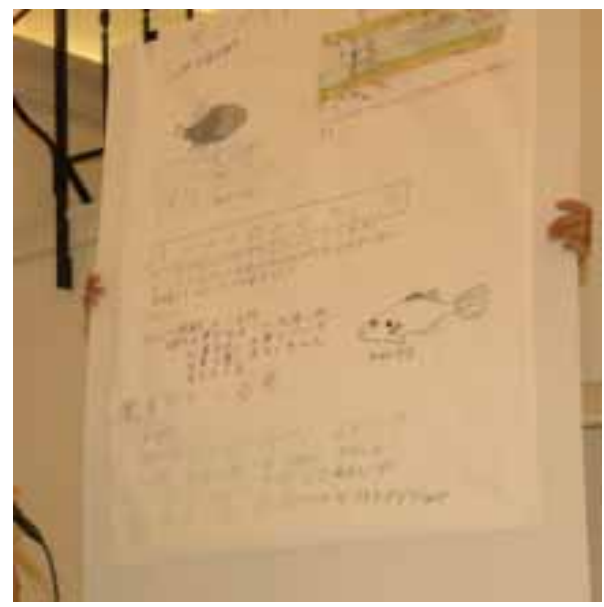


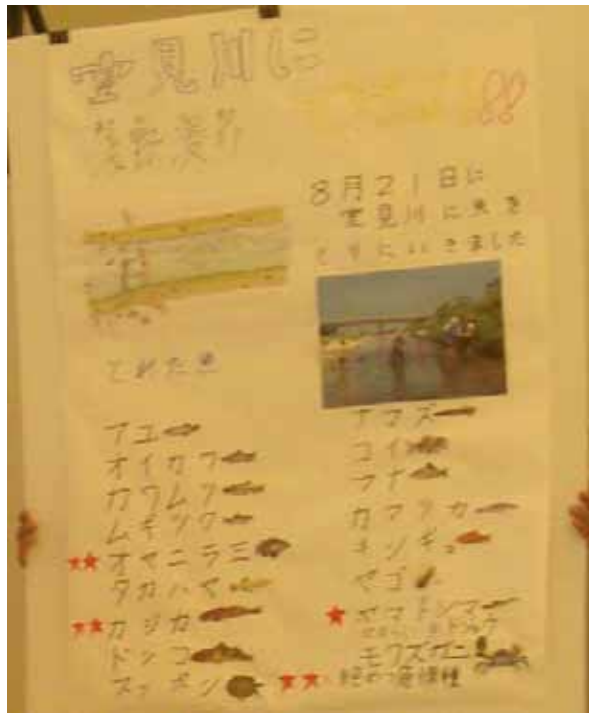
図のように、平尾大池の生き物はその生き物だけで生きることはできません。たとえば、カのような虫ホウフラはカダヤシに食べられ、カダヤシはコイに食べられます。つまり、生き物は、「食べる-食べられる」という関係にある。死んだ後には土の中にある微生物によって、再び植物によって利用されます。

## 5 感想

外来生物だからといって駆除したりすると、それを食べる生き物がいなくなり、また、それに食べられる生き物が繁殖したりして、せっかくできていた食物れんさが失われます。人間が自然に関わる際には、注意が必要だと思いました。

6 参考文献 『地球教養基礎』(2010年) 生物の個性 入門 小学館





(1) 漁志賀島、能古島のあたりに底引き漁業の体験をしました

- ・ タコ、シャコ、エビ、カニ、カレイ、ふぐ、カワハギ、こち、なんかがとれました。



2010.8.10



(2) 博多湾は、もっときれいかと思いましたが...



(4) 志摩町の海は、もっときれいでした。

- ・ ゴンズイ、フグ、ベラ、イカ、ウニ、ブンブクチャガマ、なんかがいきました。



(5) これは、ブンブクチャガマです。

- ・ はじめ、ハリセンボンかと思いました。砂の中をもごもご、うごいていました。
- ・ しらべたら、ずいぶん珍しい、人気のある生き物でした。



2010.8.10



夢松原コンサート 桃谷 正孝 演奏